

# ビオトープ観察活動評価

自然科学部員らによるビオトープ（生物生息空間）を活用した生きものの観察会などの取り組みが評価された県立篠山東雲高校（丹波篠山市）が「全国学校・園庭ビオトープコンクール2021」（公益財団法人・日本生態系協会主催）で日本生態系協会賞を受賞した。

## 全国コンクール協会賞



## 篠山東雲高「生物多様性守りたい」

ビオトープは校内農場の水田を転用した自然観察用の湿原。間伐材を再利用した散策路を付けるなどして管理している。

ゲンゴロウなどの水生昆虫やシュレーゲルアオガエル、シマドジョウなど約40種が生息。サギなどの野鳥が飛来する場にもなっている。

自然科学部では外来生物の駆除などの活動も展開している。毎年夏休みには小学生を招いて観察会を開き、自然環境の大切さを伝えている。

コンクールは今年1月に開催。2年のさん

受賞した自然科学部の部員たち（篠山東雲高校で）

（16）は「胴長靴で泥をすくい、雑草を刈るなど大変だったけれど、子どもたちが楽しんでくれてうれしかった」と話した。

部長の2年 さん

2022年4月22日  
読売新聞

（16）は「ビオトープを作り、育ててきた先輩たちの思いを受け継ぎながら、生物多様性をしっかりと守っていききたい」と意欲を新たにしていた。